

令和3年のアユ遡上数が少なかった要因

令和3年の多摩川におけるアユの推定遡上数がここ10年で最も少ない結果となった。要因として以下のことが考えられる。

○一昨年10月の台風19号に伴う大雨とその後の濁水の継続により、アユの産卵期（10-12月）に影響を与えた。

→昨年の遡上数は少なく、早期で、魚体は大型であった。

→昨年の産卵期は早期、親魚は大きく、少数であった。

○昨年の産卵期後半11,12月の降雨量が少なかった。

○遡上期の5月の雨量が少なかった。

これらの影響から、今年の遡上は早期で、魚体は大型主体、遡上数は少なくなったものと考えられた。

※他河川の遡上状況 関東では少ないところが多い

ex)荒川、利根川・・・調査開始以降最も少ない(独)水資源機構のHPから

アユの生態



- ・アユの寿命は1年
- ・産卵期は秋、ふ化した仔アユは海に下り、春に川を遡上、川の上流～中流域で成長して、秋に川をくだり、産卵する
- ・多摩川での主な産卵場は河口から15～25kmの区間
- ・産卵川底の好適な条件は粒径5～30mmのきれいな砂利